

提供日 2023/08/02
タイトル マダニに咬まれないよう注意しましょう！（「日本紅斑熱」患者が確認されました）
担当 健康福祉部 感染症対策局感染症対策課
連絡先 ふじのくに感染症管理センター
TEL 055-928-7272



－危機管理情報－

マダニに咬まれないように注意しましょう！
～今年県内5例目の「日本紅斑熱」患者が確認されました～

1 要旨

西部保健所管内在住の50歳代男性が、7月17日から発熱、発疹などの症状を呈し、7月22日に西部保健所管内の医療機関を受診し、7月26日に入院しました。紅斑が認められたことから、ダニが媒介する感染症の疑いがあるため、血液、皮膚を検体として県環境衛生科学研究所で検査を行ったところ、日本紅斑熱の病原体遺伝子が検出され、7月31日に日本紅斑熱であることが確認されました。

患者はマダニに咬まれた自覚はありませんでしたが、自宅の庭で作業をしていたことから、日本紅斑熱の病原体を保有するマダニに咬まれたことにより感染したと推定されます。

なお、患者は現在も入院中ですが、快方に向かっています。

県内で日本紅斑熱の患者が確認されたのは、今年に入ってから5例目です。春から秋にかけてマダニの活動が盛んになる時期です。レジャーや農作業などで野山や草むら、畑などに入るとマダニに咬まれることがあります。**マダニが病原体を保有していると、咬まれた人が「日本紅斑熱」、「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」などの感染症にかかる危険性があります。**これらの疾患にかからないようにするために、野外でのダニ対策が重要です。

特に、日本紅斑熱患者の発生が多い5月頃から11月頃までの時期は、野山や畑等の屋外でマダニに咬まれないよう十分注意しましょう。また、屋外を出入りする犬や猫等に付着したマダニに屋内で咬まれないよう注意しましょう。

※ 報道機関各位におかれましては、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることのないよう、格別の御配慮をお願いします。

2 マダニが媒介する主な感染症

(1) 日本紅斑熱

- 日本紅斑熱リケッチアという病原体を保有するマダニに咬まれることで感染し、人から人へ感染して広がるものではありません。
- マダニに咬まれてから、2日から8日の潜伏期間の後、高熱、発疹が現れ、重症化した場合には、死に至ることもあります。
- 県内では、過去5年で、年間3～10例、今回報告例を含め39例（本年5例）が発生しており、そのうち死亡例が2例報告されています。

(2) 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

- 感染経路は、SFTSウイルスを保有するマダニに咬まれることが中心ですが、血液等の患者体液との接触や、マダニに咬まれSFTSウイルスに感染している犬や猫の体液から感染することも報告されています。
- マダニに咬まれてから、6日から14日の潜伏期間の後、発熱、消化器症状などが現れ、重症化した場合には死に至ることもあります。
- 県内では令和3年以降、年間4～6例、計13例発生しており、死亡例はありません。本年は、これまでに3例が報告されています。

3 県民の皆様へ

(1) マダニに咬まれないようにしましょう！

- 特にマダニの活動が盛んな、**春から秋**にかけて注意が必要です。
- 野山や草むら、畑などに入る場合は、耳を覆う帽子、首に巻くタオル、長袖、長ズボ

ン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくしてください。

- マダニ用に市販されている忌避剤はありますが、マダニの付着を完全に防ぐことはできませんので、他の防護手段と組み合わせて対策を取りましょう。

(2)屋外活動後は、マダニに咬まれていないか確認しましょう！

- マダニに咬まれた場合は、数日間、体調の変化に注意しましょう。
- 発熱・発疹の症状が見られたら、早めに医療機関を受診し、マダニに咬まれた可能性があることを医師に伝えましょう。

(3)ペットに付着して、マダニが家の中に入ってくることもあります！

- 飼育している犬や猫にもダニ駆除剤を使用しましょう。
- 飼育している動物の健康状態の変化に注意し、動物が体調不良の際には、咬まれたりなめられたりしないようにして、動物病院を受診して下さい。

4 日本紅斑熱の最近の患者数（人） 令和5年は現時点の暫定値（）死亡事例再掲

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	305	318	421	487	460	185
静岡県	3	10(1)	8	8(1)	5	5

5 SFTSの最近の患者数（人） 令和5年は現時点の暫定値

年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年
全国	77	101	78	110	118	96
静岡県	0	0	0	4	6	3